「日々の理科」（第 321 号） 2015（H27),-5,19

「カタバミの教材性(2)」

お茶の水女子大学附属小学校　田中　千尋

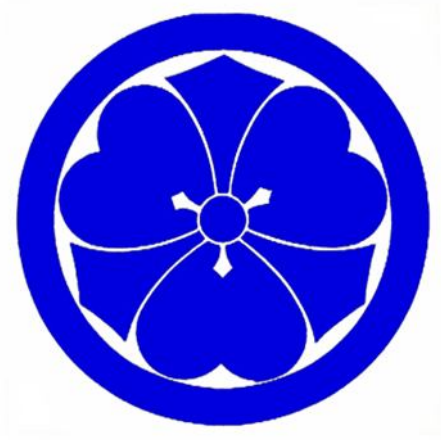
カタバミは非常に繁殖力が強い。畑や園芸をやっている方なら、カタバミの頑固さにうんざりしているはずである。ひいても刈っても、次々生えて来て、根絶が難しい。文字通り「根強い」のだ。

「典型的なカタバミ群落の様子」
ちょっとした花壇のすき間に、ニッチ的に繁茂する。
茗荷谷駅のホームでも見たことがある。

カタバミの生命力の強さ、子孫を残す力の大きさの秘密はいくつかあげられるが、その一つは種子にある。カタバミはとにかく膨大な量の種子を、非常に短期間に生産する。花が咲いて数日で、もう果実がふくらみ始める。あっという間に熟して、オクラの実を小さくしたような果実をたくさんつける。花と実は常に同時に見られ、次から次へと繰り返されている。

果実（実）の中には、種子がぎっしり詰まっている。マメ科の植物の場合は、通常種子は１列だが、カタバミの場合３次元的に種子がつまっていて、非常に生産効率が良い。分解して数えてみたら、一つの果実に 50 個以上の種子が入っていたものもあった。

種子の飛ばし方も優れている。子どもたちとカタバミの群落を観察していたら、「先生、虫が顔に当たる！」と多くの子どもが訴えた。これは虫ではなく、子どもが熟した果実に触った時に、鞘が弾けて、中の種子が勢い良く飛び出したのだ。私の顔にも当たったので、１メートル以上、引力に逆らって飛んだことになる。



この繁殖力の強さは縁起が良いとされ、家紋として武家に大切にされた。「家系が絶えない」という意味である。有名な「剣片喰（けんかたばみ）＝上図」の他にも多くの家紋が存在する。